CCl (Commission for Climatology: 気候委員会)

- -RSD (Remote Sencing Data Management)
- -WRG (Working Group on Data Management)

ISCCP (International Satellite Cloud Climatology Project: 国際衛星雲気候計画)

」(CC. 国际用生去风吹引四)

ISLSCP (International Satellite Land Surface Climatology Project: 国際衛星陸地面気候計画)

CHy (Commission for Hydrology: 水文委員会)

CMM (Commission for Marine Meteorology: 海洋気象委員会)

使用目的:1~4で以下のとおり分類

- 1 防災活動に必要な予警報
- 2 社会経済活動に影響を与える現象の監視・予測
- 3 気象の現業業務全般
- 4 企画立案および研究

観測スケール:要観測領域のおよその広さ、 $0 \sim 9$ で指定

0 1 km²

4 104 km²

7 国

1 10 km²

5 10⁵ km²

8 地域

 $2 \quad 10^2 \, km^2$

6 10⁵ km²

9 地球全体

 $3 \quad 10^3 \text{ km}^2$

水平・鉛直分解能, 観測頻度および観測精度: 標準的 な意味で使用. ただし, 最大・最小・最適の意味は次の レセカ

最大:現在の技術水準で使いこなせる最高の分解能・ 頻度・精度、ユーザーはこれ以上の値を必要と しない

最小:最低限必要な分解能・頻度・精度. これ以下の 値は情報として役立たない.

最適:技術面,経済面,現在の科学的知見に鑑み最も 好ましい分解能・頻度・精度.

可能性の評価: $1 \sim 5$ および P (partially, 部分的) でユーザーへのオペレーショナルな提供可能性を示す. 水平・鉛直分解能, 観測頻度および観測精度については, 「最小」欄の値が 評価対象(於, 衛星サービス 専門家会議, 1985年 3 月 ジュネーブ).

- 1 現在提供可能
- 2 関連技術が進歩すれば、現在の衛星システムで、 1993年までには提供可能
- 3 次世代衛星にて提供可能 (1995年が一応の目安)
- 4 センサー等の改良がすすめば西暦2000年ころ次世 代衛星にて提供可能
- 5 可能性無し

備考:提出元からの付帯情報。(A)は提供の可能性を 評価した際には出されたコメント (於, 衛星サービス専 門家会議, 1985年3月ジュネーブ).

日本気象学会平成2年度春季大会参加申込みおよび参加費等の送金について

日本気象学会平成2年度春季大会事務局

平成2年5月23~25日に気象庁本庁において開催される日本気象学会春季大会への参加申込みおよび参加費, 懇親会費の納入は、会場受付における混雑を防止するため、原則として郵便振替による事前申込み(送金)とすることにしましたので、趣旨ご理解の上、下記によりお申し込みくださるよう会員各位のご協力をお願いします。

āc

申込方法 <u>必ず2月号に挿入してある 払込用紙</u>を使用 し、必要事項を記入(裏面の通信欄もお忘れ なく)の上、最寄りの郵便局窓口に払い込ん で下さい. (払込料金は不要)

払込期限 平成2年5月8日(以後の払い込みは行き違いの原因になるのでご遠慮願います).

受領 証 郵便窓口で発行する「郵便振替払込金受領 証(払込票の写し)」を大会当日受付に提示 していただくので、大切に保存し、当日必ず 持参して下さい。

大会参加費 会 員 1,000円

学生会員 500円

一般 1,500円

懇親会費 4,000円